

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990500049		
法人名	(株) ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター榎原醍醐(すずらん)		
所在地	奈良県榎原市醍醐町156番地		
自己評価作成日	令和元年9月19日	評価結果市町村受理日	令和2年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2990500049-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和元年11月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所 近隣の田の稲刈りが終わろうとしている季節となっております。吹風が秋風に感じます今日この頃 ホームの利用者様には元気に過ごして頂いています。穏やかな環境の中で一人一人のプライバシーをまもらせて頂きながら共同生活の中で刺激も受け楽しみも見つけて頂きながら一日も長く、当ホームで生活して頂きます様お手伝いさせて頂いています。毎週金曜日の訪問看護には皆さんの体調管理をして頂いて居ます。普段の様子やバイタル表など見て頂きアドバイスを頂いたりしています。訪問マッサージを受けられている利用者様も居られ気分転換に繋がっているように感じます。良い気候の日にはなるべく外へ出かけて頂き季節を感じて頂いています。ホームの壁画も季節を感じて頂きたく季節に合わせて張替えて工夫しています。そして食事の方も楽しんで食べて頂きたく「今日は何が食べたいですか?」「そやかな天ぷらかな」など等、事務所まで利用者様との会話が聞こえて来ます。日々の食事作りにも力を入れて職員一同腕を磨いて居ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は地域との交流に努め、自治会に入会し1回の地域の清掃活動に職員が参加し、高校生の介護実習の受け入れを行ったり運営推進会議の後に健康セミナーを行うなど事業所の地域の認知度の向上に繋げています。介護相談員の受け入れやボランティアの方々からの訪問により楽器の演奏や踊りの披露を楽しんでもらい利用者の穏やかな生活の一助となっております。食事は利用者の好みや季節や旬の物を取り入れながら事業所で三食を手作りし、時には畑で採れる土筆を様々な料理し味わたり、利用者個々の好きなパンを注文して届けてもらう等、食事が楽しめるように工夫しています。長く勤務している職員も多く、毎月のユニット毎の会議や日々の中で職員は様々な意見を出し合い利用者がその人らしく安全に安心して穏やかに暮らせるように日々の支援に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安全に安心してそして穏やかに暮らして頂く。」をホームの理念として日々の業務を実践しています。そして理念に基づいた環境作りに努めています。進入社員にも説明しております。	事業所開設後に職員が意見を持ち寄って作成した理念は玄関等に掲示して意識付けを行い、職員の入職時には理念に込められた思いを説明しています。ホーム会議やカンファレンス等の際に理念に沿った支援が来ているか確認すると共に、理念の見直しの必要性について話し合うようにしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	二ヶ月に一度運営推進会議の後に健康セミナーを開催しています。セミナーを通して地域の皆さんと交流を図っています。後半に皆さんと馴染みの歌でメロディにサックスやキーボードを持参で参加下さる方も居られ嬉しくスタッフみんなでモチベーション高く取り組んでいます。	自治会に加入し、地域の情報を得て近隣の清掃活動に職員が参加したり、運営推進会議に合わせて健康セミナーを開催して地域の方の相談を受けるなど地域との繋がりを大切にしています。また多くのボランティアの訪問で踊りや楽器の演奏を楽しんだり高校生の実習の受け入れを行う等、地域の方々との交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	榎原市地域包括が開催しているオレンジカフェにスタッフがボランティアで参加させて頂いています。今年度も参加させて頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回運営推進会議を開催しています。介護相談員さん訪問看護さん訪問マッサージの先生家族様方に参加して頂き事業活動について報告しご意見を頂いています。充実した会議になる様努めています。	会議は2か月に1回開催し、活動の報告や予定の連絡等を行い意見交換をしています。家族行事などと併せて会議を実施することで多くの家族の参加が得られるようにしたり、会議終了後に健康セミナーを行うなど地域や家族との繋がりを大切にしています。会議の中で家族から要望を受け外出の機会の確保に努める等、会議を運営やサービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護相談員さんを受け入れ貴重なご意見を頂いています。サービス向上に努めています。	運営上の手続きで行政の窓口へ行ったり、不明点等も電話や訪問して確認しています。年1回行政主催の事業所連絡会に参加して行政職員と意見交換の機会をもっています。また、行政から研修の案内が届き出来るだけ参加することで行政との協力関係の構築に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修を初め榎原市の身体拘束研修にも参加させて頂き職員皆で共有し正しく理解し意識を持ってケアに取り組んでいます。	事業所は利用者の自由を尊重する事を支援の基本と考え、年2回の法人研修にも参加し事業所内で職員に伝達し、身体拘束廃止委員会が毎月開催しています。センサーマットを使用する利用者がありますが、家族と共に職員間でも必要性を検討しています。外出希望の利用者には出来る限り職員が寄り添い外出して気分転換を図り閉塞感の無い支援に努めています。	

ニチイケアセンター榎原醍(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束マニュアルを確認し職員研修又社外研修に参加し日々のケアに注意を払い虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在 後見人制度を活用している利用者さんが居られるので今後も支援する機会があれば活用していきたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に時間を取って頂きゆっくりと説明を行い理解納得頂いて署名捺印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二ヶ月に一回運営推進会議を開催しています。会議の中で貴重なご意見を頂いています。又面会時や介護計画の説明時にもこちらからご意見や要望を伺うようにさせて頂いています。	利用者の意見や要望は日々の関わりや介護相談員を通じて聞き、家族に伝えることで外出に繋がったり、好みの食事を提供する等その都度対応しています。家族の意見や要望は家族会、面会時や法人による満足度調査アンケート等でも聞いています。個別の要望が多く速やかな対応に努め、薬についての要望には医師に伝え相談するなど、運営やサービスの向上に繋がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員と普段のコミュニケーションの中で随時意見を交換しアクティビティや個々の介助等の提案に付いて積極的に取りいれるようにしている又ホーム会議やカンファ等で意見や提案を出しやすい環境作りに努めています。	毎月行うフロアカンファレンスや全体会議等で職員から活発に意見や提案を聞いています。睡眠のリズムが不安定な利用者の支援について職員間で話し合い水分の摂取のタイミング等も含めて統一したり、提案を受けて物品購入に繋げる等意見や提案を運営に反映しています。また、日々の支援の中でも職員に随時声をかけて意見や悩みなども含めて聞くように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き易い明るい環境作りに努めています。人的環境が一番であると共に出来るだけ個々の話を聞くようにしています。又キャリアアップ制度があり試験面談でステップアップ出来スタッフの意欲と質の向上に繋がっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修へ参加は出来るだけ調整しています。働きながらのトレーニングはその時に併せて必要な声かけを行う努力をしています。		

ニチイケアセンター榎原醍(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護相談派遣事業における三者関連連絡会に参加させて頂き同業者との交流を持ち色々な情報を得てサービスの向上に努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをきちんと踏まえ本人や家族のニーズに応えられるように計画を立てて信頼関係が構築できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には訪問させて頂き家族様の思いや不安を等少しでも気になる事があれば気軽に質問して頂ける様案内し家族様の見学や質問などにも積極的に対応するようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様 ご本人の意向を伺い必要なケアが提供出来る様対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活に置いてしっかりとコミュニケーションを図りスタッフも家族の一員と言う視点で関わるようにしている。本人の経験や趣味を活かして野菜の世話、料理など負担にならないよう役割を持って頂けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時に散歩や外出に付き添って頂いたり家族様の思いを尊重し共に理解し支援出来るように努めています。又行事にも参加して頂き交流を図っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様や親戚の方 お友達の方々に外出に制限がない事をお伝えし家族様と外出や帰省される場合は情報提供や介助方法のアドバイスを等支援を行っています。	利用者からの訴えが少ない中、介護相談員のカも借りながら毎月の帰宅に繋げたり、娘や息子への電話連絡を取り次ぎ関わりが途切れないよう支援しています。友人や親戚、孫等の来訪の際にはゆっくり過ごしてもらえよう配慮し、家族と自宅や外食、墓参り等に外出する際には服装等の事前の準備を支援するなど馴染みの関係が継続できるようにしています。	

ニチイケアセンター榎原醍(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士が上手く関わりが持てるよう座る場所をスタッフが誘導させてもらい楽しく安心して過ごせるよう気配りに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方に付いては差しさりの無い範囲で家族様からの状況を伺い希望により相談を受けさせて頂いたり交流を持っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活の中で一人ではなく個々の思いに沿った関わりが出来る様に努めています。行動を強制する事無く自然な状態で一日一日過ごして頂いています。	入居時に自宅や施設等暮らしている所を訪問し利用者や家族から生活歴や身体状況、趣味嗜好、思いや希望等を聞き、以前のケアマネジャーや施設からも情報を得て思いの把握に努めています。入居後は日々の中で聞いた思いや意向を記録に残し、把握困難な方の想いも表情や様子等からも汲み取り、家族へ相談したり本人本位に職員間で検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時に本人や家族様からの情報を得られるように努めています。入居後も日常の会話からより多くの情報が得られるように努力しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の一人ひとりの状態・生活歴等を理解しカンファレンスなどで話し合い日々の記録や水分排泄を確認し普段からの状態の変化に対応できるように取り組んでいます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場スタッフを中心に話し合い介護計画を基にモニタリングを行い現状に即したプランの作成に努めています。	利用者や家族の思い、アセスメントを基に作成した介護計画は6か月毎の見直しを基本とし、利用者の状態に変化があれば随時見直しています。見直しの前にはモニタリングを行い、再アセスメントを実施してサービス担当者会議を開き家族や事前に聞いた医師や看護師等の意見を反映し利用者の現状に即した計画となるよう見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌 介護記録申し送り等でスタッフ共有しケアに行かせるようにしています。		

ニチイケアセンター榎原醍(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り本人や家族様のニーズに応えられるようにその人にあったサービスの提供に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が歩んできたこれまでの生活がなるべく途切れないように生き活きと暮らせるように支援させて頂いています。又近隣と散歩やドライブに行き外出など楽しんで頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医も大切にホームの主治医診療所との連携を図りながら協力体制を作り支援させて頂いています。	入居時にこれまでのかかりつけ医の継続も可能であることを伝え選択してもらっています。2箇所の協力医による月2回の往診があり、緊急時は24時間対応で指示をもらっています。時には医師が家族とも話し合い相談するなど医療面での安心に繋がっています。訪問看護師の健康チェックがあり、利用者の状態や希望により精神科の往診や訪問歯科の口腔ケアや治療を受け、また、訪問マッサージを利用しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の介護日誌の情報提供で家族様医療介護が連携を取れるように行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人、家族様の意向を重視し相談しながら早期退院に向けて対応させて頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	可能な限り長く過ごして頂けるよう家族さんの希望や主治医の判断により出来るだけターミナルの対応を行っている。又入居時から終末期の過ごし方に付いて家族様に意向を確認し重度化した場合や終末期には家族様と主治医と連携を図りながら方針を行っている。	入居時に指針を基に利用者が重度化した際の事業所の対応を家族へ説明し、同意を得ています。利用者の状態が進んだ際には医師から家族へ説明してもらい再度意向を確認し、家族や医師、看護師、職員で話し合い体制を決め支援しています。家族からは頻回な面会等の協力を得ると共に看護師から助言を受けながら支援をしています。また、看取りを終えて振り返りを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の消防訓練を実施しています。救命救急の講習も受けています。		

ニチイケアセンター榎原醍(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非難訓練を実施し手順を全員で共有し緊急連絡網を張り出し意識を持って努めています。	年2回それぞれ昼夜を想定し、利用者も参加して通報や避難誘導、初期消火等の訓練を実施しています。救命講習も行いAEDの設置場所も確認し、訓練終了後の報告は運営推進会議で行っています。水や缶詰、おかゆ、カセットコンロ等を備蓄しています。	訓練実施の際には近隣への案内し参加を呼び掛けるなど、地域との協力関係の構築に向けた取り組みを期待しています。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフが居室に入るときは必ず本人に声を掛けるなどプライバシーを守る接遇を心がけているまたその方にあわせた話しかけがなされる配慮している。	計画に沿って接遇やマナー、認知症に関する研修を事業所で実施し、職員は知識を身に付けています。敬語を基本としていますが、呼称は家族の了解を得て本人に分かりやすい下の名前と言葉かけを行うこともあります。不適切な言葉遣いや対応が見られた際にはその都度注意し、入浴や排泄介助時は希望に応じて同性介助を行う等、羞恥心にも配慮した支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で食事の準備や片付け洗濯たたみの声かけ等庭やベランダに気軽に出られることもあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のスケジュールの中にやって頂きたい事を取り込んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方が持っているオシャレ心を大切にその日の服装を選んで頂き又その日その日の声かけ等させて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備 配膳 片付け等自発的に参加して頂いている又畑で収穫した野菜を食事に取り入れている為普段からなるべく利用者さんと一緒にさせて頂いている。そしてメニューや調理方法を教えて頂いたりしています。	献立は毎日材料を見て利用者の好みも取り入れながら職員が立て三食作っています。食材は発注したり買い物に行き、利用者は盛り付けや洗い物等に携わっています。季節や旬の食材を使用するようにし、鍋料理やちらし寿司を作ったり、手作りでケーキやクッキー等のおやつを提供することもあります。業者に利用者個々に好みのパンを注文して届けてもらったり、家族と外食に出掛ける等、食事を楽しめるように支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取や水分摂取量も記録して支援しています。		

ニチイケアセンター榎原醍(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	特に夕食口腔ケアお声かけ等させて頂きうがい 歯磨き 義歯洗浄している ご本人が出来ない場合スタッフが介助させて頂きます。月2回訪問歯科で口腔ケアマッサージを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄パターンを把握してトイレの声かけや誘導を行っている。又排泄チェック表使用してある程度予測して紙パンツの使用を減らしている。尿意便意のある方には さり気ない声かけや見守り確認などで重視した支援を行っている。	個々に応じた支援方法や排泄用品の種類を職員間で検討し、排泄支援を継続することでおむつを使用していた方が失敗が減り布の下着に変わる等排泄の状況が改善した利用者もあり、排泄の自立に向けた支援に努めています。2人介助も実施してトイレでの排泄を基本とし、利用者全員排泄の記録を取り個々のパターンを把握し、様子や時間も見ながら一人ひとりの状況に合わせて支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日 ラジオ体操散歩を日課にしており食事形態 毎日の水分補給に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望やタイミングに合わせて出来るかぎり入浴して頂ける様に心がけている。又入浴剤も取り入れ気持ちよく入って頂いています。	入浴は週2~3回を基本に日中の時間帯に支援し、希望があれば回数を増やすことも可能です。拒否が見られた場合は声をかける職員を代えたり日時を変える等工夫して無理なく入浴できるよう支援しています。利用者の状況に合わせて足浴やシャワー浴をしたり、入浴剤を使用する等1人ずつ会話を楽しみながらゆっくりと入浴できるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は個室になっており本人の希望に応じて少し横になったりお昼寝をしたりテレビをつけたまま寝たりなど自由の使って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師 薬剤師と連携を取りながら個人のお薬ケースと説明を利用し服薬管理を利用し服薬管理を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望により役割を分担して出来る作業を行っています。ご本人		

ニチイケアセンター榎原醍(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候の良い日は散歩に出かけています。最近是个々の計画がなかなか出来てませんが 外食やドライブも又気候に合わせて実施して行こうと考えています。家族様にもご協力頂いています。	出来る限り日差しを浴びれるよう支援し、気候の良い時期には日々散歩に出掛けていて、庭に出て畑の水遣りや外気浴を楽しんでもらっています。職員と個別で薔薇を観に外出したり、季節に合わせて桜の花見やコスモスを観に出掛けています。家族と一緒に外出を楽しむ利用者もあり、外出の機会を多く持てるよう支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かっています。希望に応じて使える様に支援させて頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつも希望に応じてお電話したり お手紙を出したり出来る環境作りに努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある壁画工作や写真を掲示し何気なく利用者様のお話にも出てきます。廊下や浴室に暖房を付けて温度差のリスクに対応させて頂いています。	廊下に行事の写真や利用者が書いた習字を掲示し、季節毎に利用者と職員で作った貼り絵等の飾り付けを行い温かい雰囲気を作っています。テーブルや椅子は利用者同士の関係性に配慮して配置し、利用者の体感を聞きながら過ごしやすいよう室温を調整しています。加湿清浄機も使用して毎日換気や掃除を行い清潔な環境を保ち快適な共用空間作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士でみ、気の合う方への席の配慮や外が眺められる所にソファを設置するなどして配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使われていたタンスや家具など使用されたり写真や趣味で書かれた絵など飾らせて頂いたりご本人にとって居心地の良い空間となる様に配慮しています。	入居時に家族へ馴染みの物や大切にしている物等を持って来てもらうよう伝え、テレビや机、椅子等を持ち込み利用者と家族で配置し、入居後に安全面を考慮して家族に相談して変更することもあります。家族の写真や飾り絵の道具等を持ち込み楽しむ方もおり、その人らしい居室となっています。換気や清掃に気を配り清潔な空間を保ち、快適に過ごせる居室作りに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	滑り止め素材を使用した床で手すりも多く設置しており食堂、リビング、トイレ等バリアフリーで自由に歩いて移動出来るようにしています。		